

## 玄界灘より得られた福岡県初記録の カタボシイワシ（ニシン目：ニシン科）

中島田正希<sup>1</sup>・日比野友亮<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 〒 810-0064 福岡市中央区地行

<sup>2</sup> 〒 805-0071 福岡県北九州市八幡東区東田 2-4-1 北九州市立自然史・歴史博物館

### はじめに

カタボシイワシ *Sardinella aurita* Valenciennes, 1847 はニシン科サツパ属に属する海水魚で、主に九州南岸より知られている（青沼・柳下, 2013；畑・本村, 2017）。第一筆者は、福岡県内の農水産物直売所で本種が販売されていることを確認し、また糸島市にて本種を複数個体採集した。これらの個体は福岡県での本種の初記録となるので、ここに報告する。

### 材料と方法

本研究で用いた 8 個体の標本のうち、2 個体は 10%ホルマリン溶液、6 個体は 70% 程度のエタノールで固定したのち観察を行なった。計測および鱗条数の計数は魚類学実験テキスト（岸本ほか, 2006）に従い、0.1 mm 単位まで計測を行なった。ただし、眼窩径、尾鰭・胸鰭条長は計測していない。尾鰭鰭条は計数せず、KMNH VR 100272 のみ右側の胸鰭鰭条数を計数した。また、垂直鰭間距離（背鰭終点から臀鰭起点までの水平距離）、軀幹部長（頭部後端から肛門中央までの直線距離）、尾部長（肛門中央から下尾骨後端中央までの直線距離）を追加計測した。標準体長は SL または本文中で体長と表記した。生鮮時色彩は、固定前に撮影された KMNH VR 100274 と KMNH VR 100275 の生鮮時カラー写真（Fig. 1）に基づいた。標本は全て北九州市立自然史・歴史博物館（KMNH）に保管されている。本稿中で用いられているカタボシイワシの学名は、日本産魚類全種

を網羅した本村（2020）に従い *Sardinella aurita* Valenciennes, 1847 とした。

### 結果と考察

*Sardinella aurita* Valenciennes, 1847

カタボシイワシ（Fig. 1）

標本 8 個体, 130.7–211.6 mm SL. KMNH VR 100272, 140.7 mm SL, KMNH VR 100273, 130.7 mm SL, KMNH VR 100274, 131.0 mm SL, 2019 年 1 月 19 日, 福岡県糸島市野北漁港, 釣り採集, 木下忠昭; KMNH VR 100275, 203.3 mm SL, 福岡県糸島市姫島漁港, 2018 年 11 月 9 日, 福岡県内の農水産物直売所により購入; KMNH VR 100276, 194.3 mm SL, KMNH VR 100277, 211.6 mm SL, KMNH VR 100278, 209.0 mm SL, KMNH VR 100279, 204.5 mm SL, 福岡県糸島市姫島定置網, 福岡県内の農水産物直売所より購入, 2019 年 11 月 6 日, 中島田正希。

記載 体各部の計測・計数値は以下のとおり：全長 116.1–123.1；尾叉長 106.7–108.7；頭長 22.6–25.8；背鰭前長 40.5–44.1；臀鰭前長 75.2–78.1；背鰭起点での体高 23.5–28.5；腹鰭起点での体高 23.0–28.7；尾柄高 7.8–8.4；尾柄長 9.4–11.9；背鰭基底長 13.0–15.2；臀鰭基底長 13.7–15.1；吻長 6.3–8.0；上顎長 8.8–9.9；両眼間隔 4.4–5.4；眼径 4.9–6.1；背鰭最長軟条長 11.4–13.5；臀鰭最長軟条長 3.9–5.9；腹鰭最長軟条長 7.0–9.5；背鰭基底終点から臀鰭起点までの距離 18.5–23.6；軀幹部

Nakashimada, M. and Y. Hibino. 2020. First records of *Sardinella aurita* (Clupeiformes: Clupeidae) collected from Genkai-nada Sea of Fukuoka Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 47: 117–119.

✉ MN: Jigyō, Chuo, Fukuoka 810-0064, Japan (e-mail: ichtthyologylab@gmail.com).

Received: 17 September 2020; published online: 17 September 2020; [http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_047/047-022.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-022.pdf)



Fig. 1. Fresh specimen of *Sardinella aurita* from near Hime-shima Island, Itoshima, Fukuoka Prefecture, Japan, KMNH VR 100275, 203.3 mm SL, photo by Y. Hibino.

長 49.3–54.0；尾部長 24.7–29.3。背鰭軟条 17–18；臀鰭軟条 16–17；胸鰭軟条 15–17；腹鰭軟条 9。体はやや側扁し，延長して長円形をなす。口は頭部前端にあり，下顎前端が上顎前端よりわずかに突出する。開口時，上顎は前方にほとんど突出しない。眼は吻端から鰓蓋後端までの中央よりわずかに前方にある。円形で，眼の周囲および眼は脂脰に覆われる。脂脰の開口部は上下に長い長円形で，瞳孔上に位置する。口は中庸で，上顎の後端は眼の前端をわずかに超える程度。舌は細く，先端は丸みを帯びる。鰓蓋縁は下方で大きく前方に湾曲し，段状をなす。鰓蓋上方および中央に 2 個のなだらかな突起がある。鰓腔後縁に上下 2 個の突起がある。KMNH VR 100276–KMNH VR 100279 では，上方のもの前端が下方のもの前端よりわずかに前方にある。その下方は大きく前方に突出し段状をなす。前鰓蓋縁および鰓蓋縁は円滑。頭部は完全に無鱗。頭部背面は骨質で，両側縁に骨質条線がある。この骨質条線は後方に向かうにつれ分枝する。体は剥がれにくい大きな円鱗で覆われる。体側に側線を欠く。腹中線はキール状をなし，峽部から肛門直前まで 1 列の稜鱗に覆われる。稜鱗は 26–34 枚。軀幹部は長い。背鰭起点は体の中央部よりやや前方に位置する。臀鰭起点は肛門直後に位置し，背鰭終点とはかなり離れる。胸鰭は頭部後端のわずか前方の下方からほぼ直下，腹鰭は背鰭の第 9–13 軟条の直下にそれぞれ

位置する。背鰭はほぼ三角形で，基底に鱗鞘がある。背鰭第 1–4 あるいは第 5 軟条のそれぞれの間隔は，以降の軟条同士の間隔よりかなり小さい。KMNH VR 100273–KMNH VR 100275，KMNH VR 100278，KMNH VR 100279 は第 4 軟条が，KMNH VR 100276，KMNH VR 100277 は第 5 軟条が，KMNH VR 100272 は第 6 軟条がそれぞれ最長。臀鰭は非常に低い。鰭条は前端付近で長く，後方に向かうに従って徐々に短くなっていくが，最終 2 軟条はそれ以前の軟条よりやや長い。基底に鱗鞘がある。KMNH VR 100275，KMNH VR 100279 は第 2 軟条が，KMNH VR 100276–KMNH VR 100278 は第 3 軟条が，KMNH VR 100274 は第 15 軟条が，KMNH VR 100272，KMNH VR 100273 は第 16 軟条が，それぞれ最長。尾鰭は顕著な二叉形。胸鰭は低位で，腹縁近くに位置。側方に翼状に広がり，胸鰭後縁の上方はやや鎌状。胸鰭基底付近の体側面に窪みがあり，胸鰭を収納できる。腹鰭基底は左右で隣接しない。腹鰭基底の上方と下方に細長い変形鱗がある。KMNH VR 100279 は第 1 軟条が，それ以外の 7 個体は第 2 軟条がそれぞれ最長。

**生鮮時色彩** 体背面およそ 1/3 は青みを帯びた光沢のある銀色で，その直下に 1 本の細い淡黄色縦線が走る。頭部は背縁付近のみ青みを帯びた銀色。口の前，眼の上方，KMNH VR 100275 では前鰓蓋骨から鰓蓋域にかけ淡黄色。上下顎の前

端は暗い紺色。鰓蓋の上方に黒色域があり、その上の肩帯上方に顕著な黄色域がある。背鰭は透明で、縁辺をのぞいて黄色みを帯びる。上縁は黒色素胞がやや密集し灰色となる。また、上縁以外の域にも黒色素胞がわずかに点在する。臀鰭は全域が透明。ただし、KMNH VR 100275 では前方の鰭条の先端がごくわずかに灰色となる。尾鰭は透明で、大部分は黄色みを帯びる。後縁は背鰭上縁よりも幅広く黒色素胞が密在し、背鰭よりやや濃い灰色となる。胸鰭および腹鰭は透明だが、胸鰭上半部が黄色みを帯びた灰色となる。

**備考** 本研究に用いた標本は、いずれも胸鰭が低位であること、側線がないこと、背鰭が体の中央付近にあり、その起点は臀鰭起点よりはるか前方にあること、口が小さくその後端が眼の後縁を超えないことなどが中坊（2013）の示したニシン科に合致した。また、腹中線に稜鱗があること、上顎前縁に欠刻がないこと、下顎が著しく突出しないこと、臀鰭軟条が40よりはるかに少ないこと、鰓蓋域に目立った骨質条線がないこと、第2上主上顎骨が上下ほぼ対称であること、背鰭前方鱗列が背中線上に並ばないこと、および腹鰭が9軟条であることにより、*Sardinella aurita* と同定された（青沼・柳下，2013）。

本種は主に九州南岸・東シナ海中部・高知県・長崎県佐世保市・和歌山県日高郡・神奈川県三浦市・横須賀市、および福岡県に非常に近い山口県下関市・上関町より報告されている（青沼・柳下，2013；畑・本村，2017；中坊，2018）。しかし福岡県および九州北岸からの報告はなかったため、本報告が福岡県沿岸における初記録となる。福岡からの記録は、山口県下関市から長崎県佐世保市に至るまでの九州北岸および西岸に連続して分布

している可能性を示唆している。

畑・本村（2017）は本種について、従来では頭長が体長の26–29%であることが本種の標徴として知られていたが、彼らが報告した高知県にて採集された本種の頭長は体長の23.5%であったこと、大森（2007）などの文献で示された東シナ海と鹿児島県より採集された本種の頭長が体長の24–26%であったことより、この若干の差は種内の地理的変異の可能性が高いと述べている。本研究で記載した個体の頭長は体長の22.6–25.8%であり、前述の東シナ海・鹿児島県・高知県より報告されているものと非常に近い。そのため、本研究で記載した個体も同様の変異の範囲内であると考えられる。

## 謝 辞

本研究を行うにあたり、個体を提供していただいた木下忠昭氏に心より感謝する。

## 引用文献

- 青沼佳方・柳下直己. 2013. ニシン科. Pp. 297–301, 1811–1812. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 大森純子. 2007. カタボシイワシ. 鹿児島大学総合研究博物館ニュースレター, 16: 8.
- 中坊徹次. 2013. 科の検索. Pp. 33–137. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次. 2018. ニシン科. Pp. 78–83. 中坊徹次（編・監修）小学館の図鑑Z, 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017. 高知県から得られたニシン科魚類カタボシイワシ *Sardinella lemuru* の記録及び本種の日本における出現状況. 四国自然史科学研究, 10: 41–46.
- 本村浩之. 2020. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 560 pp.